

図書館建設に向けた学生と市民の協働スモールプロジェクト

旧小千谷総合病院は、中心市街地における賑わいや交流の創出にも寄与してきた経緯があり、その移転は、中心市街地の活力が低下する要因の一つとなりました。本事業においては、その跡地を図書館等複合施設として活用することにより、新たな賑わいと活力を生み出すことが期待されています。

また図書館等複合施設には、「新たな活用を行い、新たな魅力を生み出すことで、中心市街地における活力の再創出を図り、市民の暮らしをより良くする」という意味を持つ暮らしのり・デザインを大切にすることが決められています。

プロジェクトメンバー

新潟工科大学

小千谷市役所

市民

新潟工科大学は企業がつくったモノづくり大学であり、企業との関わりが深く、企業との連携による実践的な学びができる。正課外活動として「空間デザイン実践」「ハコニワファニチャーワークショップ」など、さまざまなプロジェクトを企業と共に実施している。

小千谷市役所は、アカデミック・リソース・ガイド株式会社、小千谷市立図書館に協力を仰ぎ、小千谷図書館等複合施設の計画・実行をしている。また市民や学生、企業を結ぶ小千谷リビングラボ「at! おぢや」を運営している。

小千谷リビングラボ「at! おぢや」と呼ばれる施設・まちづくりの場にて、学生からお年寄りまで、様々な理由からプロジェクトに興味のある方々が集まっている。市民や学生から寄せられた新たなプロジェクトの可能性を対話から模索している。

私たちの目的

学生ならではのアイデアで地域の方の暮らしに何か新しい変化を与え、暮らしのり・デザインを図りたいと考えた。また暮らしの変化の中から今まで出会えなかったひとたちと交流の輪を広げることで新たな賑わいの場を創出する。この目的を達成するため4つのプロジェクトを企画した。

り・デザインとは？

「知る」ことを通じて関心が広がり、行動が広がることで、これまで出会ってこなかった人たちとつながり、交流の輪が広がることで、それぞれの暮らしが変化する。また、交流を重ねることで、共に自分たちの暮らしをより良くしようと行動することの一連の展開を指している。



プロジェクト A 「おぢや本づくりプロジェクト」

本づくりでは、自分自身の表現。地域の魅力発信や共有をする。それによって、市民の暮らしの中に地域交流の場を生み出す。

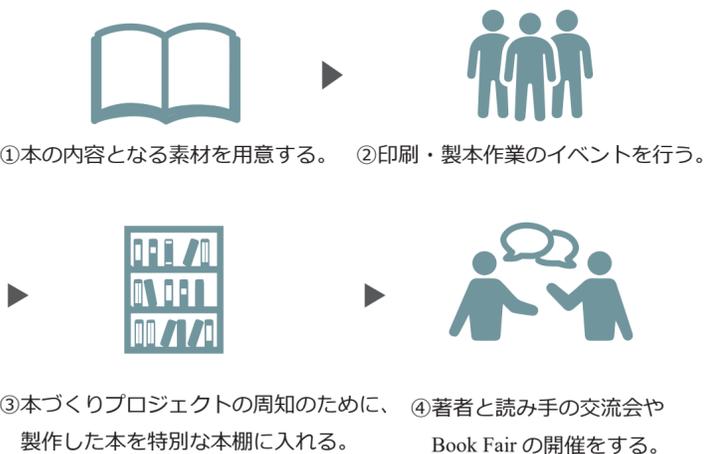
地域交流の後、自身の本の紹介や気になった本の購入ができる Book Fair を開催する。それは、地域の人に留まらず、様々な人がそこへ足を運び、交流の輪が広がる。

対象敷地は、小千谷市図書館等複合施設内。

本づくりの浸透化

スマートフォンやPCなど文章や画像の編集がしやすくなった現代では本を作ることは容易である。ZINE と呼ばれる新しいスタイルのカルチャーが日本で浸透しつつある。

本づくりプロジェクトの流れ



この活動を市民に提案したところ、良い反応を貰うことができた。図書館に勤務している方からは、「at! おぢやの活動をまとめた本を製作したい。」と意見を貰えた。地元の高校生からは、「1ページに自分を表現し、それをまとめた雑誌のようなものをつくりたい」というアイデアも挙がった。

現在の活動では、企画の第一歩として「わたしの本をつくるプロジェクト」が動き出した。それは、近隣の小学校の児童に、これから建設される小千谷市図書館等複合施設への思いを絵で表現してもらっている。絵になった、理想の図書館像やそこでやりたい活動の様子をまとめ、絵画集のような形にしようと考えている。

印刷・製本作業のイベントについては、地域に製本作業に詳しい方がいらっしゃるという話を聞いたため、イベントの協力をお願いしたい。

プロジェクト B 「BBQ、ビアガーデン」



賑わいや交流に寄与していたこの土地に、新たな建築物が建設される前に、空き地を利用した BBQ やビアガーデンを行う。

at! おぢやのメンバーとの交流や参加に躊躇している人たちが気軽に参加できるきっかけとなる。

対象敷地は、旧小千谷総合病院跡地。

市民に伝えたところ、実施したいという声が多く、計画が進んでいた。しかし、新型コロナウイルスによって、集まって食事をするのが難しくなった。新型コロナウイルスの感染拡大のペースが鈍化した頃合いを見計らって行いたいという結論に至った。

出典：Hawaiian BEER GARDEN 高槻
[084]の求人 | 求人@飲食店.COM (inshokuten.com)

プロジェクト C 「小千谷を彩る」

小千谷の本町通りに、小千谷ちぢみを垂れ幕や幟のような形で街を彩る。

小千谷の伝統工芸品である小千谷ちぢみを、多くの人に知って欲しいという気持ちを、まちづくりの観点から活用方法を模索した。

対象敷地は、新潟県小千谷市内のアーケード通り及び小千谷市図書館等複合施設内。



at! おぢやの話し合いでは、「小千谷ちぢみは高価なものなので、野ざらしにたくない。」「親から代々受け継がれているようなものであるから、渡したくない。」と反対的な意見が多く挙げられた。

しかし、話し合いの結果から、伝統工芸品や名物として残したいという思いを強く感じた。そこで、学生服のリボンや名刺入れ、ブックカバーなど小物として活用すること。屋外でなく屋内に展示することを提案した。また、その話し合いの中で、「縮の鳥居」の事例が挙げられ、68年ぶりに行われる。このように、市民の中で小千谷ちぢみの活用について考えられている。

今後も市民と共に、小千谷ちぢみを知ってもらうために話し合いを続けたい。

プロジェクト D 「まちにアンカーを広げる」

拠点の整備と連動して、周辺の既存市街地も含めた一体のアーバンデザインでの成功事例を読み、同様に整備することで市民が集まる拠点になると考えた。

そこで、小千谷市図書館等複合施設の整備と連動して、まちにアンカーを広げようことを提案した。アンカーとは、時間の中で棲み分けられるコミュニティのための箱であり、使われ方が変化していく活動の場を指している。アンカーは、施設の設計を担当されている株式会社平田晃久建築事務所が暮らしのり・デザインの実践の場として発案された。

対象敷地は、小千谷市図書館等複合施設周辺の空地・空き家。



アンカーの一例として、市民が道具なしでもDIYできる場「ものづくり工房アンカー」を提案した。

着想までの背景として、今後図書館で使用される家具が未定だったことがあり、市民の方たちと図書館内の家具を作ることで、図書館への愛着を深めようと考えていた。プロジェクトの第一歩として工作ができる空間と工具を用意し、図書館の大事な要素となり、簡単に作ることでできる本棚、本箱の制作を提案した。

現在の活動としては、空き家が見つからず、停滞している。将来的には、アンカーを充実させ、図書館で知識を蓄えアンカーで体験し、わからなかったことを図書館で調べられる環境を整える。それにより、アンカーと図書館の循環を生み出すことで、図書館とまちに一体感をつくりだす。また、アンカーを充実させ体験型の観光を行うことで、地方活性化を図る。

これらに向けて

本プロジェクトは、2021年の10月頃に開始し現在で1年が経過しようとしている。しかし、4プロジェクト中3プロジェクトが企画段階で止まっている状況だ。

また唯一進行している本づくりプロジェクトも小千谷市役所の方々に主導していただいている。引き続き「at! おぢや」等を通じ、市民の方や企業の協力を仰ぎつつ今後の展開と一緒に考えていきたい。

勝海凱斗
201911052@cc.niit.ac.jp